

業務部速報

発信者》JREU
仙台地本業務部 / 湯ノ目
〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡1-4-3
TEL 022-297-0155
FAX 022-291-3070
JR 031-3981~3
FAX 031-3980
2019年 3月 12日

2018年度申9号「『電気部門の変革2022』に関する申し入れ」団体交渉③

(8項) 今施策に伴い、異常時対応復旧時間拡大としないようにすること。具体的には、体制・配置や緊急自動車の増配備などの対策を講じること。また、特に踏切故障対応等について、偽装請負とならないように対策を講じること。

(回答) 異常時においても、パートナー会社との連携をさらに深めることで、より効率的に業務を推進できる体制を構築していく。

〈議論のポイント〉

- ・異常時復旧は現状より時間がかかってしまう可能性があるため、施策について、各系統に説明する。
- ・設備故障表示(踏切無故R)のリモートリセットについて、来年度で30箇所等順次導入し、早期の異常時復旧に向ける。(特殊信号発行機の検査業務の機械化は未定)

※今後、特に検証していきたいと思います。

(9項) 新幹線と在来線の分離による在来線のメンテナンス費用削減等としないようにすること。

(回答) 現行どおりの取り扱いとなる。

〈議論のポイント〉

- ・この間通りの取扱いで、経年などをみて取り纏め、上申を行う。要求はかける。
- ・STB化等の設備21施策の目標については継続して行っていく。

【電車線モニタリング】

(10項) 電車線モニタリングについては在来線検測車に搭載するとの事だが、モニタリング装置の保守区分と設置・管理方法等を明らかにすること。

(回答) モニタリングや高度な解析により故障予知(CBM)や検査周期の最適化をめざしているが、その実施にあたっては十分検証を行ったうえで関係機関と調整を行い実施していく。

(11項) 導入にあたっては、試行を行うこと。また、試行・検証を行い、必要な見直しを行うこと。

(回答) 電車線モニタリング装置(在来線検測車)については、十分検証したうえで実施していく。

(12項) 画像データ収集等については線路周辺情報(地形、自然条件・環境等)と併せてデータ収集(接地物等との離隔の良否等を判断出来る画像データ)するために「白日」走行とすること。

(回答) 電車線モニタリング装置(在来線検測車)については、十分検証したうえで実施していく。

(13項) 電車線モニタリング導入の際には、再度労使議論を行うこと。

(回答) スマートメンテナンスの導入は、メニューごとに試行等を踏まえ、十分検証したうえで実施していく。また、関係社員に対しては、今後も説明会等により周知していく考えである。

〈議論のポイント〉・至近距離検査周期と体制(4名以上)の考えは、モニタリング導入まで変わらない。

- ・モニタリング装置は、イーストアイDは秋田車両センター、イーストアイEは勝田車両センター、所属車両センターで設置、2021年度上期実施に向け、1年間検証を行う。(メンテナンスは電力課の発注で専門メーカーが行う)。実施は・本社・テクニカルセンター・メーカー・電ネ部で協議し判断する。

※検証を踏まえて、必要に応じて、申し入れを行い、労使議論を行っていきます。

【その他】

14、仙台信号通信技術センターの「ネットワーク科/無線科」の2科体制を「情報通信設計科/情報通信保全科」の2科体制に再編するにあたり、時期、運用・要員体制、具体的業務内容と教育について、明らかにすること。

(回答) 関係社員には、必要な説明を実施してきたところである。

〈主な議論〉・2019年4月から体制変更。2020年度上期～拠点MCにも通信担当者は配置する。